

経済学批判	資本論(第一巻第一篇)
<p>第一部 資本について 第一篇 資本一般 第一章 商品</p> <p>A 商品の分析のための史的考察</p> <p>第二章 貨幣または単純流通 一 価値の尺度 B 貨幣の度量単位についての諸学説 二 流通手段 a 商品の変態 b 貨幣の流通 c 鑄貨、価値表章 三 貨幣 a 貨幣蓄蔵 b 支払手段 c 世界貨幣 四 貴金属</p> <p>C 流通手段と貨幣についての諸学説</p>	<p>第一部 資本の生産過程 第一篇 商品と貨幣 第一章 商品 第一節 商品の二要素 使用価値と価値(価値実体、価値の大きさ) 第二節 商品に表わされた労働の二重性 第三節 価値形態または交換価値 A 単純な、個別的な、または偶然的な価値形態 一 価値表現の両極、すなわち、相対的価値形態と等価形態 二 相対的価値形態 a 相対的価値形態の内実 b 相対的価値形態の量的規定性 三 等価形態 四 単純な価値形態の総体 B 総体的または拡大せる価値形態 一 拡大された相対的価値形態 二 特別な等価形態 三 総体的または拡大された価値形態の欠陥 C 一般的価値形態 一 価値形態の変化した性格 二 相対的価値形態と等価形態の発展関係 三 一般的価値形態から貨幣形態への移行 D 貨幣形態 第四節 商品の物神的性格とその秘密</p> <p>第二章 交換過程</p> <p>第三章 貨幣または商品流通 第一節 価値尺度 第二節 流通手段 a 商品の変態 b 貨幣の流通 c 鑄貨、価値表章 第三節 貨幣 a 貨幣蓄蔵 b 支払手段 c 世界貨幣</p>
	<p>第二篇 貨幣の資本への転化 第四章 貨幣の資本への転化</p>

